

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌、扁平上皮癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Electron beam therapy is not inferior to superficial x-ray therapy in the treatment of skin carcinoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	SCCCQ9-11	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	7635774	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Radiat Oncol Biol Phys	
	雑誌 ID		
	巻	32	
	号	5	
	ページ	1347-50	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1995 年	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Griep C	Rijnsburgerweg 大学病院
その他著者 1		Davelaar J	同上
その他著者 2		Scholten AN	同上
その他著者 3		Chin A	同上
その他著者 4		Leer JW	同上
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	皮膚癌に対し電子線照射が表在X線照射と同等の効果を持つかを検討		
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究		
	セッティング	Rijnsburgerweg 大学病院		
	対象者	基底細胞癌 (295 例)、扁平上皮癌(94 例) 平均年齢 71.5 才 男性：251 例、女性：138 例		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)		
	介入 (要因曝露)	表在 X 線照射：99 例 一回線量 6-10 Gy、6-10 回、マージン 0.5-1cm 電子線照射：290 例 (4~12MeV) 一回線量 3 Gy 週 4 回、17-18 回 (計 51-54 Gy)、 マージン 1-1.5cm、copper foil (表面補正) 大きな腫瘍では、2 Gy/回、週 5 回、計 60 Gy		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
		1	局所制御率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
		2	整容性	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
		3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
		4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
	主な結果	全体の局所制御率：95.1% 表在 X 線照射：97%、電子線照射：94.5% 小さな腫瘍 (照射野<10 cm ²) の局所再発率：2.2% 大きな腫瘍 (照射野>50 cm ²) の局所再発率：13.8% 基底細胞癌の局所再発率：4.1% 扁平上皮癌の局所再発率：7.5% 整容性は良好 (91%) 表在 X 線より電子線照射が優れている (Good: 約 80% vs. 約 50%、Fair: 約 1% vs. 約 15%)		

	結論	電子線照射は表在 X 線照射と局制御率において同等の成績であった。また腫瘍が大きい場合においても良好。他の報告で電子線照射が劣るとの報告は技術的要因がある。
	備考	
レビュワーコメント	レビュワー氏名	鹿間 直人
	レビュワーコメント	<p>表在 X 線照射は一回線量が極めて高い。この他の報告を含め、放射線治療に伴う結合織の線維化による引きつれという毒性が現在通常用いられる電子線で一回線量を 2~3 Gy 程度とした場合にはそう多くはないはずであり文献を読む際に注意が必要。</p> <p>表面補正をするなどの表面線量に対する配慮が重要なポイントの一つ。</p> <p>レベル IV</p>